

中施策評価書

作成日 平成29年 11月 1日

中施策事業名	消防水利設置・維持管理事業	部課名	消防本部・消防総務課
		作成者	稲垣 聡 毛受 淳一
①めざすまちの姿	18 災害時に行政と民間、地域、近隣市町村との連携がとれている		
②大施策	災害時に行政と民間、地域、近隣市町村と連携する		
③中施策	普段から各機関との連絡調整がとれる体制をつくる		
④中施策事業の対象	市内の市街地及びこれに類する地域		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	耐震性を有する防火水槽が整備されている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> 防火水槽設置事業 立上り消火栓設置等補助事業 地下式消火栓(消防隊専用)設置事業 		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
耐震性防火水槽整備率(市街地等区域を概ね網羅できる78基(100%)を目標値とする)	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		75	76	77	78	78
	実績値	74	75				
単位	基						
	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標と同じ

■コスト

事業実施年度			決算額	決算額	予算額
			平成27年度	平成28年度	平成29年度
① 総事業費(a+b)			38,657千円	32,820千円	
人件費	a 事業費合計		29,373千円	23,601千円	25,427千円
	正規職員	人数	1.56人	1.56人	
		b 金額	9,284千円	9,219千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		9,284千円	9,219千円		
② 補助金等(収入)			0千円	0千円	0千円
③ コスト(①-②)			38,657千円	32,820千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))			562円	477円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	コストを縮減して目標が達成できた	○	A
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	耐震性防火水槽整備整備率の目標値を達成しているため、今後も継続する。
-----------------------------	------------------------------------

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	立上り消火栓移設に際しての補助金の増額変更 耐震性防火水槽設置に際しての設置時期の調整 (南部児童館設置により、閑散期に設置調整の必要有り)	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	耐震性防火水槽設置に際して設置場所により設置時期の調整を行う必要がある 消防広域化以降は市役所防災防犯対策室に移管することになる	
今後、改善・拡大する事業	事業名 立上り消火栓設置等補助事業	内容、理由、時期等 今後世代交代により、地区管理の立上り消火栓を撤去する傾向にあるため撤去ではなく、移設の方向で地域と調整していく。
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称) なし	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名 なし	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

中施策評価書

作成日 平成29年 11月 1日

中施策事業名	消防団運営事業	部課名	消防本部・消防総務課
		作成者	稲垣 聡
①めざすまちの姿	18 災害時に行政と民間、地域、近隣市町村との連携がとれている		
②大施策	災害時に行政と民間、地域、近隣市町村と連携する		
③中施策	普段から各機関との連絡調整がとれる体制をつくる		
④中施策事業の対象	消防団員・区、町内会・関係団体		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	地域の中心となり、地域住民と相互に連携協力し、活動を行っている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	任命式・観閲式開催事業・操法大会開催事業・出初式開催事業・消防団員健康診断・消防団活性化事業・分団交付金事業		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
消防団活動回数(年間)	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
		目標値		820	820	820	820
	実績値	810	940				
単位	回						
	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標と同じ

■コスト

事業実施年度			決算額	決算額	予算額
			平成27年度	平成28年度	平成29年度
① 総事業費(a+b)			54,673千円	52,093千円	
人件費	a 事業費合計		37,474千円	35,015千円	38,933千円
	正規職員	人数	2.89人	2.89人	
		b 金額	17,199千円	17,078千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		17,199千円	17,078千円		
② 補助金等(収入)			0千円	0千円	0千円
③ コスト(①-②)			54,673千円	52,093千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))			795円	757円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	コストを縮減して目標が達成できた	○	A
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	目標を達成していることから、これを継続、普及活動に努めることが重要である。
-----------------------------	---------------------------------------

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	新規消防団員加入推進・消防団活動の普及啓発	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	現年度同様継続する 消防広域化以降は、市役所防災防犯対策室に移管することになる。	
今後、改善・拡大する事業	事業名 なし	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称) なし	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名 なし	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

中施策評価書

作成日 平成29年 11月 1日

中施策事業名	消防活動事業	部課名	消防本部・消防総務課
		作成者	毛受 淳一
①めざすまちの姿	18 災害時に行政と民間、地域、近隣市町村との連携がとれている		
②大施策	災害時に行政と民間、地域、近隣市町村と連携する		
③中施策	行動計画に基づく連携についての訓練を実施する		
④中施策事業の対象	災害時に必要な消防装備		
⑤中施策事業の意図 <small>(対象をどのようにしたいですか)</small>	災害時に必要な消防装備が更新計画に基づき整備（緊急車両の更新及び整備指針に基づくオーバーホール）されている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 消防・救急車等購入事業 ・ 車両維持管理事業 		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
必要な更新等の実施率	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値	/	100	100	100	100	100
	実績値	100	100				
単位	%						
	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値	/	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標と同じ

■コスト

事業実施年度			決算額	決算額	予算額
			平成27年度	平成28年度	平成29年度
① 総事業費(a+b)			245,826千円	272,083千円	
人件費	a 事業費合計		16,652千円	44,527千円	58,195千円
	正規職員	人数	38.51人	38.51人	
		b 金額	229,174千円	227,556千円	
	非常勤一般職員等 <small>(事業費に含む)</small>	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		229,174千円	227,556千円		
② 補助金等(収入)			0千円	0千円	0千円
③ コスト(①-②)			245,826千円	272,083千円	
市民一人あたりコスト <small>(③/市の人口(評価対象年度末時点))</small>			3,573円	3,955円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	コストを縮減して目標が達成できた	○	A
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	目標値を達成し、今後も消防装備更新計画を継続する
-----------------------------	--------------------------

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項		
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項		
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

中施策評価書

作成日 平成29年 11月 1日

中施策事業名	女性防火クラブ事務	部課名	消防本部・消防総務課
		作成者	稲垣 聡
①めざすまちの姿	19 防災を行政任せにせず、普段から家庭と地域の準備と連携が十分できており、災害時には助け合うことができる		
②大施策	災害に備え、家庭と地域の準備と連携ができ、災害時には自発的に助け合えるよう支援する		
③中施策	災害に備えて家庭での準備を促す		
④中施策事業の対象	女性防火クラブ員		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	クラブ活動を通じ、家庭や地域からの火災を予防する		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 消防半日体験事業 ▪ 各種消防訓練事業 ▪ 街頭広報事業 ▪ 視察研修事業 		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
女性防火クラブ行事参加人数(年間)	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		300	300	300	300	300
	実績値	285	335				
単位	人						
	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標と同じ

■コスト

事業実施年度			決算額	決算額	予算額
			平成27年度	平成28年度	平成29年度
① 総事業費(a+b)			3,553千円	3,518千円	
人件費	a 事業費合計		1,410千円	1,390千円	1,386千円
	正規職員	人数	0.36人	0.36人	
		b 金額	2,143千円	2,128千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		2,143千円	2,128千円		
② 補助金等(収入)			0千円	0千円	0千円
③ コスト(①-②)			3,553千円	3,518千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))			52円	51円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	コストを縮減して目標が達成できた	○	A
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	クラブ活動を通じて火災の予防意識が広まり、また、住宅用火災警報器、消火器、感震ブレイカーの設置促進を図ることができた。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	災害は火災のみならず地震による被害も想定できることから、家具の転倒防止等についても周知を図りたい。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項		
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

中施策評価書

作成日 平成29年 11月 1日

中施策事業名	救急救命普及事業	部課名	消防本部・消防総務課
		作成者	毛受 淳一
①めざすまちの姿	19 防災を行政任せにせず、普段から家庭と地域の準備と連携が十分できており、災害時には助け合うことができる		
②大施策	災害に備え、家庭と地域の準備と連携ができ、災害時には自発的に助け合えるよう支援する		
③中施策	災害に備え家庭と地域の連携を促し、災害時の助け合いの意識を向上させる		
④中施策事業の対象	豊明市在住、在勤、在学者		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	多くの市民等が救急講習等を受講しており、有事の際に対応できている AEDを市内のコンビニエンスストアに配置し、24時間安心なまちを推進している		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> 救急、救命講習開催事業 普及員、指導員講習開催事業 コンビニAED設置事業 		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
救急講習等参加人数	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		4,200	4,200	4,200	4,200	4,200
	実績値	3,680	5,093				
単位	人						
コンビニAED設置事業(設置率)	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		100	100	100	100	100
	実績値	0	100				
単位	%						

※のついた指標はまちづくり指標と同じ

■コスト

事業実施年度			決算額	決算額	予算額
			平成27年度	平成28年度	平成29年度
① 総事業費(a+b)			60,328千円	60,587千円	
人件費	a 事業費合計		103千円	787千円	1,506千円
	正規職員	人数	10.12人	10.12人	
		b 金額	60,225千円	59,800千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		60,225千円	59,800千円		
② 補助金等(収入)			0千円	0千円	0千円
③ コスト(①-②)			60,328千円	60,587千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))			877円	881円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	コストを縮減して目標が達成できた	○	A
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	目標値を達成しているので、これを継続し、普及啓発に努めることが重要である。
-----------------------------	---------------------------------------

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	小児に対する救急講習の受講者数割合が少ないため、小児対象救急講習会の開催企画を行なう。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	なし	
今後、改善・拡大する事業	事業名 小児対象救急講習	内容、理由、時期等 2歳3ヶ月歯科検診に併せた小児対象救急講習、定期開催の小児対象救急講習(6, 10, 2月)
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

中施策評価書

作成日 平成29年 11月 1日

中施策事業名	防火思想の普及宣伝事業	部課名	消防本部・消防総務課
		作成者	稲垣聡
①めざすまちの姿	19 防災を行政任せにせず、普段から家庭と地域の準備と連携が十分できており、災害時には助け合うことができる		
②大施策	災害に備え、家庭と地域の準備と連携ができ、災害時には自発的に助け合えるよう支援する		
③中施策	災害に備え家庭と地域の連携を促し、災害時の助け合いの意識を向上させる		
④中施策事業の対象	市民		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	火災予防ニュース等の広報紙や初期消火訓練を通して防火思想の普及が図られている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 消火器や立上り消火栓等の取り扱い指導 ・ 防火講話 		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況								
地域での訓練回数 (年間)		事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
		目標値		60	60	60	60	60
		実績値	54	47				
単位	回							
		事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
		目標値		0	0	0	0	0
		実績値	0	0				
単位								

※のついた指標はまちづくり指標と同じ

■コスト

事業実施年度			決算額	決算額	予算額
			平成27年度	平成28年度	平成29年度
① 総事業費(a+b)			1,781千円	1,834千円	
人件費	a 事業費合計		293千円	356千円	480千円
	正規職員	人数	0.25人	0.25人	
		b 金額	1,488千円	1,478千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		1,488千円	1,478千円		
② 補助金等(収入)			0千円	0千円	0千円
③ コスト(①-②)			1,781千円	1,834千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))			26円	27円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	指標の内容を見直す必要がある	△	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	地域の訓練で防火思想の普及を図ることができた。初期消火器具の取り扱いは、繰り返し訓練が必要である。目標値が達成できなかったが、これは、消火訓練に変えて救急訓練を実施したものや、防災意識が高い地域は消防職員の立会いを求めず、地域独自で訓練を実施したことも考えられる。
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	地域の訓練を指導する、職員の確保及び指導体制を、構築しなければならない。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	訓練回数のほか、参加人数を把握して計上する。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

中施策評価書

作成日 平成29年 11月 1日

中施策事業名	消防職員研修・教育事務事業	部課名	消防本部・消防総務課
		作成者	稲垣 聡 毛受 淳一
①めざすまちの姿	40 市長や議会、行政は、まちを良くしていくために外からの知識を吸収し、失敗を恐れず果敢にチャレンジしている		
②大施策	まちを良くしていくために情報を収集し、失敗を恐れずチャレンジする		
③中施策	常に情報を収集し、学ぶ環境をつくる		
④中施策事業の対象	市消防職員		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	消防大学校及び救急救命研修所等で研修を受講させる事で消防の基本的、専門的知識、技術の習得を図り、職場において必要な資格を取得している		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 指導救急救命士養成研修 ▪ 救急救命士養成研修 ▪ 救急救命士処置範囲拡大追加講習 ▪ 消防士養成研修 ▪ 職員業務研修 		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
救急救命士の資格 取得者数	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		26	27	28	28	28
	実績値	22	25				
単位	人						
	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標と同じ

■コスト

事業実施年度			決算額	決算額	予算額
			平成27年度	平成28年度	平成29年度
① 総事業費(a+b)			11,245千円	15,099千円	
人 件 費	a 事業費合計		7,376千円	11,258千円	8,494千円
	正規職員	人数	0.65人	0.65人	
		b 金額	3,869千円	3,841千円	
	非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		3,869千円	3,841千円		
② 補助金等(収入)			0千円	0千円	0千円
③ コスト(①-②)			11,245千円	15,099千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))			163円	219円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	コストを縮減して目標が達成できた	○	A
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	目標値を達成しているが、常に情報収集を行い、消防職員として消防の基本的、専門的知識及び技術の取得、資格取得に努める。
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項		
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項		
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		